

# AutoCAD

## ネットワーク ライセンスのメリット

ネットワーク ライセンスは、ワークステーション ベースで稼働する多くのソフトウェア製品が採用する効果的なライセンス体系です。このホワイトペーパーでは、お客様がソフトウェア予算を計画的に運用するために、ネットワーク ライセンスを活用する意義について紹介します。

ネットワーク ライセンスを導入すると、ユーザは必要なときに必要なソフトウェアにアクセスできるようになり、ライセンス管理者は使用するソフトウェアの ライセンスを簡単かつ効率的にコントロールできます。ネットワーク ライセンス ソフトウェアを導入して、それを効果的に利用するためには、計画、導入、メンテナンスに投資をする必要はありますが、適切に運用することで、管理者の皆様や企業に大きなメリットをもたらすことができます。

本ホワイトペーパーで紹介するメリットは、ソフトウェア導入時にネットワーク ライセンス ソフトウェアの使用を選択することによって実現します。

AutoCAD® には、オンラインで利用可能な RegisterOne を利用すれば、CAD マネジャー、IT マネジャー、およびシステム管理者は、ライセンス サーバの設定と会社情報をすばやく簡単に記述し、それらの情報をインターネット経由でオートデスクに送信できます。この電子的な処理は迅速に(通常は秒単位で)処理されます。送信後、ライセンス ファイルが返送され、管理者が指定したライセンス サーバに置かれます。インターネット経由で直接オートデスクのシステムとアクティベーションすることも、電子メールによるアクティベーションのどちらも可能です。

### 目次

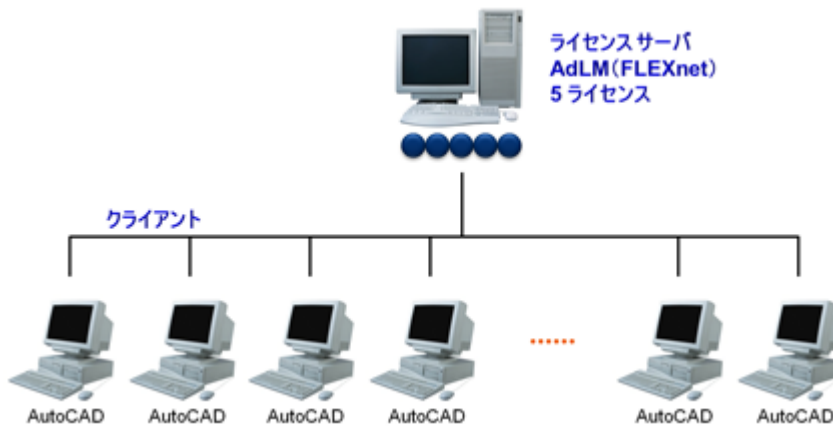
ネットワーク ライセンスの仕組み.....	2
メリット.....	3
柔軟で効率的なライセンスの運用.....	4
使用状況の把握.....	6
制御機能.....	7
まとめ.....	9
その他の参考資料.....	9



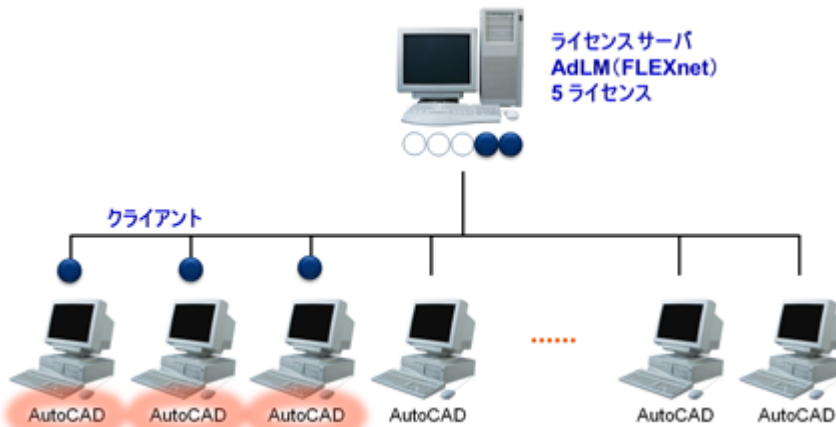
このドキュメントは、日本語版の AutoCAD 2010 の利用を前提に記述されています。対象のバージョン以外の AutoCAD では、コマンドや機能が異なる場合があります。

## ネットワーク ライセンスの仕組み

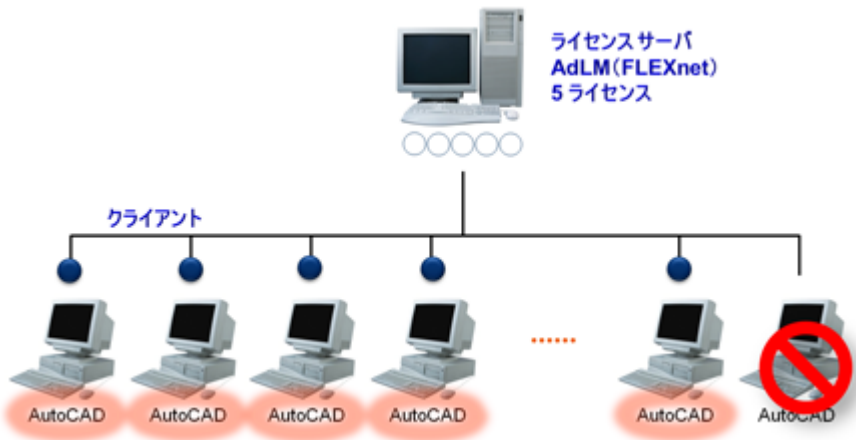
スタンドアロン ライセンスとネットワーク ライセンスの違いは、ライセンスをライセンス サーバで管理する点です。このため、ワークステーション上にはネットワーク ライセンスを利用する AutoCAD が個別にインストールされている必要があります。ここでは、ライセンス サーバに 5 つのライセンスがプールされていると仮定して、基本的な仕組みを把握します。



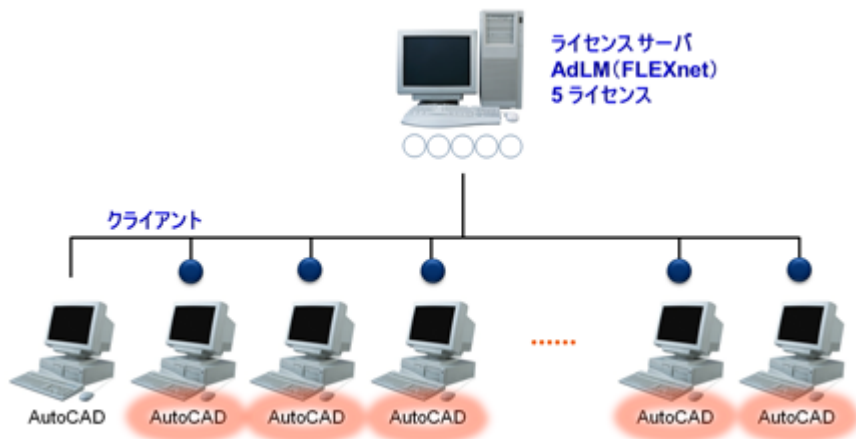
クライアントで AutoCAD を起動すると、AutoCAD はライセンス サーバ上で利用可能なライセンスがあるかをチェックします。ライセンスが利用可能な場合、ライセンス サーバ上のライセンスが 1 つ消費され、クライアントの AutoCAD が起動します。次の図は、3 つのライセンスがクライアントによって使用中である状態を示しています。



ライセンス サーバのライセンスがすべて使用中の場合、AutoCAD の起動は拒否されます。



クライアント上で AutoCAD を終了すると、ライセンス サーバにライセンス が返却されます。この状態であれば、別のクライアントで AutoCAD を起動することができます。



## メリット

ネットワーク ライセンスの主要なメリットは、以下の 4 つです。

### 1. 柔軟で効率的なライセンスの運用：

ネットワーク ライセンスの最も基本的なメリットです。オートデスクでは、2 通りのソフトウェア ライセンス 体系を用意しています。スタンドアロン ライセンス(単独インストール)とネットワーク ライセンスです。

一般的に使用されているのが、スタンドアロン ライセンスです。このライセンス体系は、ソフトウェアを特定のワークステーションでのみ稼働させる場合に最適です。ライセンスを共有する必要がなく、ワークステーションから別のワークステーションに移動させる必要がほとんどないか、まったくない場合には、こちらのライセンスをおすすめします。

ネットワーク ライセンスは、本ホワイトペーパーのテーマであるもう 1 つのライセンス体系です。このライセンス体系では、AutoCAD の実行時にライセンスのみをサーバから取得し、終了時にライセンスを

サーバに返却します。ライセンスが社内ネットワーク全体を“浮動”できるため、必要に応じてワークステーションから別のワークステーションへとライセンスを移動させることが可能です。クライアントソフトウェア(ユーザのワークステーションにインストールされたアプリケーション)と、ライセンスサーバにインストールされたネットワークライセンス管理ソフトウェア間で通信を行うことにより、この自由なライセンス体系を実装できます。

## 2. 使用状況の把握：

すべてのライセンスがライセンスサーバで管理されるため、管理者はライセンスの使用状況を常に把握できます。Network License Manager の追跡ツールにより、たとえば部門別の使用ライセンス総数や指定したユーザの週当たり総使用時間、拒否されたライセンス要求数など、さまざまなレポートを作成できます。こうしたデータは、ライセンスの日常的な管理に役立つほか、将来のソフトウェア投資予算の設定や予測にも有用です。

## 3. 制御機能：

ネットワークライセンスでは、個別のユーザやグループによるソフトウェアへのアクセスを管理者が制御できます。ソフトウェアをインストール、アンインストールしなくても、ライセンスをグループから別のグループへ移すことが可能です。ユーザごとにライセンスへのアクセスを保証したり、拒否したりできます。必要に応じて、特定のネットワークライセンス機能(ネットワークからライセンスを借用する機能など)の有効化/無効化も可能です。

## 4. 標準化：

AutoCAD の Network License Manager は、ネットワークライセンスの業界標準である、Acresso Software 社の FLEXnet<sup>®</sup> テクノロジーを基盤にしています。FLEXnet を基盤にしたことで、ネットワークライセンスのユーザは、業界標準であり、かつ最新技術が実装されたネットワークライセンステクノロジーのメリットを享受できます。2,500 社以上のソフトウェアベンダーが FLEXnet を使用しているため、すでに社内に FLEXnet テクノロジーが導入されているかもしれません。次のセクションでは、上記の各メリットをより詳しく解説するとともに、ネットワークライセンスをより効果的に使用するための具体的な Network License Manager ツールの例をご紹介します。

## 柔軟で効率的なライセンスの運用

ここでは、ネットワークライセンス管理の基本と、ネットワークライセンスの利用でライセンスをネットワークに柔軟に展開する手法について説明します。ネットワークライセンスでは、ライセンスをワークステーション間で移動する必要性が想定されています。少人数のユーザが各自のワークステーションに AutoCAD をインストールして使用している企業では、ネットワークライセンスサーバのセットアップに要する時間と手間は見合わないかもしれません。ネットワークライセンスが最適なのは、限られた期間のみ AutoCAD を使用しなければならないグループやプロジェクトがある場合や、不定期に AutoCAD にアクセスする必要のあるユーザがいる場合、ネットワーク全体のソフトウェアの稼働率を把握し、制御する必要がある場合です。

基本的なライセンスサーバのセットアップは、特に難しい作業ではありません。ライセンスサーバに必要なハードウェア要件は低めです。ただし、ライセンスサーバを常に使用可能な状態にしておかないと、ユーザはクライアント上のアプリケーションを実行できません。このため、ライセンスサーバ本体およびライセンスサーバとワークステーションを結ぶ通信ネットワークは、信頼性が高く常時使用可能である必要があります。ライセンスサーバのセットアップで、Network License Manager を使用できます。前のセクションで触れた通り、ネットワークライセンスの登録とアクティベーションを行うと、ライセンスサーバにライセンスファイルが配布されます。このファイルによって、ライセンスを購入した製品ごとに、ライセンスサーバから実行可能なライセンス数が指定されます。ライセンスファイルは、サーバのネットワークインタフェースカード(NIC)の MAC アドレスに関連付けられるため、配布されたライセンスファイルの使用は、単一のサーバに限定されます。ライセンスサーバを起動後、配置ウィザードを使って AutoCAD の“配置”をサーバ上に作成します。個々のワークステーションには、この配置を使ってインストールをおこないます。ライセンスサーバがアクティベーションを一元管理するため、個々のワーク

テーション管理者によるアクティベーションは必要なくなり、ライセンスはサーバから自動で取得されます。日常の業務では、通常、ネットワーク経由でライセンスを取得していることをユーザが意識することはありません。

ネットワークライセンスのもう1つの特長は、ライセンスをライセンスサーバから“借用”できる機能です。ライセンスの借用により、ユーザは限られた期間、ネットワークライセンスをライセンスサーバから「チェックアウト」し、ライセンスが不要になったら、ライセンスを「チェックイン」できます。ライセンスが1つライセンスサーバから貸し出されると、返却されるまで、使用可能なライセンスの総数が一時的に1つ減ります。ライセンス借用されたワークステーション(またはノートPC)は、ライセンスサーバに接続しなくてもアプリケーションを実行できるようになります。ワークステーション/ノートPCの借用ライセンスがネットワークに再接続される前に有効期限切れになると、そのライセンスは失効し、ライセンスサーバ上に自動的に返却されます。ユーザはその時点でネットワークにログオンして、別のライセンスを借用することができます。これは遠隔地での処理も可能で、借用時に利用していた社内LANへの直接接続は不要ですが、ライセンスサーバへ到達できるセキュリティで保護された接続が必要になります。ライセンス借用がよく使われるのは、AutoCADのライセンスをノートPCに借用して、出張に携帯するというケースです。

以下に、企業がライセンスサーバを導入し、効果的に運用している例を示します。

#### 例 1 :

この企業で AutoCAD を利用しているユーザは合計 40 人です。利用状況について社内調査したところ、そのうち 20 人の「コアユーザ」が 10 ライセンスの AutoCAD を共有していることが明らかになりました。残りの 20 人のユーザは、不定期に(予想平均使用時間がおおよそ週 8 時間)AutoCAD を必要としています。コアユーザ 20 人によると、AutoCAD を使用するのは業務時間の半分程度ですが、一部のユーザは、特定のプロジェクトで通常 3~4 週間にわたってフルタイムで使用したと述べています。これらのユーザは単一の地域(設計オフィス)に勤務しており、信頼性の高い社内ネットワークへのアクセスが可能です。1つの解決策は AutoCAD を 40 コピー(すべてのユーザに 1 コピーずつ)購入することですが、それでは予算を超過してしまいます。概算すると、この企業に必要なのは、フルタイムライセンスが 4、ハーフタイムライセンスが 16、8 時間ライセンスが 20 です。これは、 $4 + (16 \times 0.5) + (20 \times 0.2) = 16$  ライセンス(平均)となります。そこで、6 ライセンスを新規購入し、既存の 10 ライセンスを AutoCAD 最新版にアップグレードしてグループ内のすべてのシステムに AutoCAD 最新版をインストールします。次に、当初の調査対象のユーザについて、ライセンスサーバへのアクセスを許可します。ユーザに見落としや抜けがあった場合(またはユーザのニーズが変わった場合)は、ユーザがライセンスサーバにアクセスできるように、管理者のデスクトップから簡単に設定できます。以後は、AutoCAD の稼働率を監視しながら、新規のソフトウェアの導入を進め、見積もりと実際の使用状況がどの程度一致しているかを確認します。

#### 例 2 :

ユーザ調査を実施した結果、使用パターンに大きな落差があることが判明しました。コアユーザグループ 10 人は、平均で週 20 時間 AutoCAD を必要とします。しかし実際には、プロジェクトに従事しているときに集中的に使用しており、そうでない場合はほとんど使用していません。また、遠隔のプロジェクトサイトに呼び出された場合は、AutoCAD をノート PC にインストールして社外に持ち出す必要もあります。このようなユーザが必要なときにライセンスにアクセスできる仕組みが不可欠です。そのほか、主に閲覧と簡単な編集のために、週に数時間だけ AutoCAD を使用するユーザが 50 人います。これらのユーザは、AutoCAD のライセンスにアクセスできることにメリットを感じますが、予算を割いてまで自分のデスクトップ用にライセンスを購入することに消極的です。たとえば、ライセンスサーバに使用可能なライセンスがない場合には、あとでクライアントの製品を起動し直してライセンスの再取得を試みるなど、どちらかという、柔軟に対応しているユーザです。

このシナリオに最適なセットアップは、ライセンスサーバ 1 台に、オプションファイルを使って、10 ライセンスを使用率の高いユーザ用に「予約」という設定です。使用率の高いユーザの希望は、ライセ

ンスを 15 台のコンピュータで使用できるようにすることです(ワークステーション用に 10、ノート PC のプロジェクト サイト用に 5)。このようなケースは、従来であればスタンドアロン ライセンスを 10 ライセンス購入し、必要に応じてワークステーションからノート PC に手作業で移動していました。これに対して、ネットワーク ライセンス サーバを使用すると、10 ライセンスのうち 5 つを借用できるように設定できます。その結果、手作業でライセンスを移動する手間はなくなり、すべてのヘビーユーザが常時ライセンスを使用できるようになります。一方、不定期に使用するユーザについては、仮に 5 ライセンスを用意した別のサーバをセットアップします。ライセンス管理者は使用状況とライセンス拒否の度合いを監視して、取り決めたサービス水準が不定期ユーザに提供されるよう調整することができます。

## 使用状況の把握

本セクションでは、SAMreport-Lite の使用について説明します。SAMreport-Lite は、AutoCAD Network License Manager に付属する、ライセンス使用状況のレポートを作成するための無償ツールです。SAMreport-Lite は Acreesso Software 社の製品で、SAMreport フル製品 (Acreesso Software 社から別売で入手可能) の限定機能版として提供しています。ネットワーク ライセンスの実際の使用状況を把握するための基本機能を備えた、使いやすいツールです。SAMreport-Lite のドキュメント(英語)は、メディア ブラウザ (AutoCAD DVD を DVD-ROM ドライブに挿入すると起動するアプリケーション) から入手できます。「ドキュメントを読む」セクションにリンクがあります。

SAMreport-Lite は、各ライセンス サーバにセットアップするレポート ログ ファイルの情報を処理するアプリケーションです。レポート期間、ユーザ名、製品などの基準に基づいたフィルタリングやソートが可能で、データを HTML、テキスト、および RIF (Report Interchange Format) で出力します。RIF 形式を使用すると、一般的なオフィス ツール (Microsoft® Excel など) でデータを図表やグラフにすることが可能です。

ログ ファイルで調べられる代表的なパラメータは、ライセンス サーバの稼働時間、使用可能なライセンス数、拒否されたライセンス要求の数、使用ライセンスの最大数、使用可能なライセンスの使用率などです。ユーザのタイプによっては、サーバの可用性が 98% で十分な場合もあれば、不十分なケースもあります。ライセンスの拒否を受け入れられないと感じるユーザもいれば、後でやり直せばよいというユーザもいます。SAMreport-Lite の主なメリットは、ライセンス管理者がユーザ、マネジャー、購買部門と交渉する際の客観的なデータを提供する計測ツールである点です。

### 例 3 :

前述の例 2 をさらに詳細に検討してみましょう。ライセンス管理者は各グループの予想稼働率の調査結果に基づいて、ライセンスを購入しました。今後はログ ファイルのデータを使用して、実際の使用状況を監視することができます。ライセンス サーバ上で、指定したユーザのライセンス使用状況を記録し、毎週ログ ファイルをダウンロードして、製品別、ユーザ別にフィルタリング、ソートを行い、リストを Excel のスプレッドシートに読み込みます。拒否されたライセンス要求の数も調べます。データによると、使用率の高いユーザは予想どおりの水準で作業しており、ライセンス拒否はほとんどないか、まったくありません。一方、不定期ユーザに関するサーバ ログ ファイル データが示す結果は、まったく異なっていました。1 か月間のデータを調査し、1 日当たりの使用率のスプレッドシートを作成して、関係部門の責任者と協議します。多くの場合、彼らは自部門のユーザが AutoCAD にアクセスできるようになったことに満足していますが、ライセンス拒否について苦情を受けています。ライセンス管理者は折れ線グラフを Excel で作成し、2 つの重要な事実を示します。1 つは、1 名当たりの平均使用率が予想の約 2 倍であること(1 ユーザ当たり週 2 時間と見積もっていたが、実際には 4 時間使用)です。もう 1 つは、週末に使用率が跳ね上がることです。グループのユーザの多くが金曜日に仕事の締め切りを抱えており、当日に最終的な編集の多くを行っていることが明らかになりました。そこで、Excel で作成したライセンスモデルをいくつか示して、モデルが実際の使用率とどのように食い違っているかを示します。そこで、AutoCAD を 5 ライセンス追加すると、ユーザの平均的な要求が満たされ、10 ライセンスを追加すると、それまでのピーク時要求の 95% に対処できることを示します。部門責任者は 5 ライセンスの追加に予算を配分すること、および金曜日に急上昇する要求を平均するように業務プロセスを変更することに同意しました。またライセンス管理者は、許容できるライセンス拒否率に合意し、許容率の 90% に達したら、部門責任者に連絡するところを取り決めました。

## 制御機能

ネットワークライセンスのもう1つの重要なメリットは、すべてのソフトウェアライセンスをコントロールする機能です。この機能により、ライセンス管理者とユーザで取り決めたサービス水準を常に保ち、各ソフトウェアライセンスから最大の価値を引き出すことが可能です。

ネットワークライセンスは、主に2つの手段で制御できます。ライセンス サーバの環境設定とオプションファイルです。オプション ファイルは、ライセンス サーバ上でライセンスの使用環境を設定できるテキストファイルです。

### ライセンス サーバ環境設定

ライセンス サーバは次の3通りの環境設定が可能です。

- シングルライセンス サーバ
- 分散型ライセンス サーバ
- 冗長型ライセンス サーバ

各環境設定にはそれぞれ以下のような長所と短所があります。

#### シングルライセンス サーバ：

推奨設定です。最もシンプルなライセンス サーバ環境設定で、ほとんどの企業がこの設定から導入し始めます。この設定では、ライセンス サーバに必要なハードウェアとソフトウェアの要件はかなり低めです。メモリとCPUの使用量は小さく(サーバを使用するクライアントの数によって異なります)、必要なディスク容量はFLEXnetユーティリティとログファイル(かなり大きくなる場合があります)が要求するサイズのみです。主な要件は、AutoCADライセンスへのアクセスが必要なすべてのクライアントワークステーションが、待ち時間を少なく(低遅延)、高い有効性を備えたライセンス サーバにアクセスできる必要があることです。サーバとクライアント間の通信が不通になった場合、一定の時間が経つとAutoCADライセンスはタイムアウトし、AutoCADが動作しなくなります。ライセンスソフトウェアは、短時間のダウンタイム(通常15分未満)には対応するようになっていますが、通信が時間内に回復しない場合は、ライセンスサーバとの接続が失われたことをAutoCADがユーザに警告します。通信の復旧を複数回試みた後、作業の保存をユーザに指示してから、AutoCADは終了します。ライセンスサーバとの通信が復旧し、ライセンスを再取得できるようになるまで、AutoCADは起動できません。

ユーザグループ間でライセンスを共有するのが望ましくない場合は、複数台のシングルライセンスサーバを、グループごとにセットアップできます。この方式の主な短所は、サーバ間でライセンスを共有できない点です。未使用のライセンスがサーバAにあっても、サーバBのユーザはそのライセンスにアクセスできません(ユーザグループが別予算で運用されている場合など、それで問題のない場合もあります)。長所は1台のサーバに障害が発生しても、他のサーバのライセンスには影響しないことです。サーバ間でライセンスを共有する場合に最適な環境設定は、次に説明する分散型ライセンスサーバ環境設定です。

#### 分散型ライセンス サーバ：

この環境設定では、ライセンスを複数台のサーバに分散することができます。ワークステーションがライセンスの取得を試みる場合、AutoCADライセンスを取得できるまで、すべてのサーバを対象にライセンス取得を試行することが可能です。各ユーザのワークステーションには、使用可能なライセンスサーバのすべて(または管理者の設定によっては一部)へのパスが設定されています。これは、インストール時に配置ウィザードを使用して定義された内容です。リストにある最初のサーバでライセンスを拒否されると、自動的にリストの2番目のサーバ、3番目のサーバへと、順番に問い合わせます。

#### 例4：

設計オフィスが東京にあり、支社が大阪、名古屋、福岡にあります。各オフィスにあるシングルライセンスサーバが高速LANでライセンスを配布しています。各支社は高速通信で本社および他の支社と接続されていますが、オフィス間の接続(WAN)は一般的に各オフィス内のLANよりも信頼性が低い状態です。会社のソフトウェアライセンスを最大限に活用するために、すべてのライセンスを本社の1つのライセンスサーバにまとめることを検討していますが、通信環境の障害で接続できなくなると、支社で

AutoCAD を使えなくなることが懸念されています。そこで、解決策として、複数のライセンス サーバを分散されたライセンス サーバとして環境設定することを検討します。オフィス間の通信が正常なときは、各オフィスはライセンス サーバ全体にアクセスします。オフィス接続の 1 つで障害が発生した場合、その支社は最低でもローカル サーバのライセンスにはアクセスできます。本社のサーバが故障した場合にも、各支社のライセンスを他の支社で使用することが可能になります(そのように設定した場合)。

#### 冗長型ライセンス サーバ :

このサーバ環境設定はきわめて高い有効性が要求される場合に適していますが、管理が最も煩雑です。このため、オートデスクでは、可能な限り分散型システムの選択をおすすめしています。冗長型環境設定では、相互に常時通信状態にある 3 台のサーバ(3 台でなければなりません)を使って、1 つのライセンス プールを共有します。そのため、1 台のサーバが障害を起こしたり、保守のためにシャットダウンされたりする場合は、残りのサーバがライセンス プール全体をバックアップし、ライセンスの提供には悪影響が及びません。ただし、3 台のサーバすべてが同じサブネット上に存在し、信頼できるネットワーク通信を行う(WAN での連携が可能な分散型サーバとの相違点)必要があります。分散型サーバと異なり、この環境設定ではネットワーク障害時の対策はなく、他にも管理を難しくする要素が多数あります。

#### オプション ファイル

オプション ファイルはライセンス管理者が編集できるテキスト ファイルで、ライセンス サーバを制御するための主要ツールです。オプション ファイルの編集で、ユーザ グループのセットアップ、ログ ファイル作成、その他のオプションの設定を行います。以下に、オプション ファイルを使った、AutoCAD のライセンス借用機能とタイムアウト機能を詳細に説明します。

#### ライセンス借用 :

AutoCAD の機能で、ユーザが一定の期間ライセンス サーバからネットワークライセンスを「チェックアウト」し、使用が済んだら、そのライセンスをサーバプールに「チェックイン」することができます。借用されたライセンスは、ユーザのコンピュータに限定され、借用期間中はライセンス サーバとの通信は必要ありません。AutoCAD の実行セッション中に[ツール]メニューから[ライセンス借用]を選択すると、ライセンスを借用できます。その際に表示されるダイアログに利用可能な最長借用期間が表示されるので、ユーザはライセンスを借用したい期間を最長期間以内で指定できます。管理者はオプション ファイルにより、借用可能なライセンスの数や、借用を許可するユーザを制御できます。メニュー選択で、ユーザが期限より早くライセンスを返却することも可能です(ユーザの出張が予定よりも早く終わった場合など)。AutoCAD のステータストレイにある「借用」アイコンは、借用ライセンスで作業していることをユーザに通知し、残りの借用期間を表示します。

#### 例 5 :

サーバに 10 ライセンスあり、そのうち 5 ライセンスを借用可能にすることを検討しています。また、最長借用期間を 2 週間以内に制限し、借用機能を特定のユーザ グループに限定することも検討しています。このような場合、特定のオプション ファイルとシステム変数を使って、これらの設定を制御できます。

#### タイムアウト :

この機能を利用すると、管理者は、AutoCAD セッションをアイドル状態にしておける最大時間を設定できます。ユーザがライセンスをライセンス サーバからチェックアウトして AutoCAD を起動しているのに、実際には AutoCAD を使用していない(ソフトウェアが遊んでいる)場合などに、最大アイドル時間を設定し、ライセンスをプールに自動返却するタイミングを制御します。制限時間になると、サーバがライセンスを回収するため、ワークステーションはライセンスを失ってセッションが終了します。管理者はオプション ファイルに、AutoCAD セッションの最大許容アイドル時間を設定することができます。

#### 例 6 :

ネットワークライセンスを有効に利用していないユーザが 2 人います。2 人とも作業をすすめるのに AutoCAD が必要ですが、一方のユーザは AutoCAD を終了するのを忘れて、5 時間の会議に出かけてしまいました。もう一方のユーザは「もしかしたら使用するかもしれない」ので、AutoCAD を開いたままにしています。どちらのケースも、ライセンスを拘束してしまっているため、結果として他のユーザがライセンスを使用することを妨害しています。このようなユーザには、アイドル時間の上限を 2 時間に設定しておけ



ば、彼らが 2 時間以上 AutoCAD を使用しない場合に、他のユーザが使用するためにサーバが自動的にライセンスを回収します。彼らが再度 AutoCAD を使用しようとする場合、使用可能なライセンスがある限り AutoCAD セッションは中断されずに続行します。使用できるライセンスがない場合、AutoCAD はライセンスサーバとの接続が失われたケースと同じように動作し、作業中の図面を保存することができます。

## まとめ

ネットワークライセンスは、ライセンスを管理するための強力な手段です。どのような形態のライセンスが自社に最適であるかを判断することは重要です。ライセンスの大半をスタンドアロンにしたまま、パイロットプロジェクトをネットワークライセンスで運用することや、ライセンスのほとんどをライセンスサーバに移して、絶対必要な少数のスタンドアロンライセンスを主要ユーザのために残すこともできます。ネットワークライセンスを導入する場合、ほとんどの企業が特殊ケース用にスタンドアロンライセンスも若干用意します。

オートデスクは、ネットワークライセンスの導入を支援するための数多くのリソースを用意しています。オートデスクコンサルティングでは、お客様特有のニーズに合わせたオンサイトのカスタムトレーニングクラスから完全支援型の導入プランまで、すべてを対象とするコンサルティングサービスを提供します。

Autodesk Network License Manager が提供する柔軟性、使用状況の把握機能、制御機能を組み合わせることで、企業はライセンス管理システムをセットアップした瞬間からメリットを得られます。コスト管理のメリットだけでなく、AutoCAD ユーザに提供できるサービス水準も向上します。

## その他の参考資料

AutoCAD では、ネットワークライセンスの導入を検討するにあたって、さまざまな疑問点を解消するのに役立つオンラインヘルプが用意されています。

- 『ネットワーク管理者用ガイド』
- 『ネットワークライセンスガイド』
- 『SAMreport-Lite User's Guide』

Autodesk, AutoCAD, Autodesk Inventor, DWF, Revit, 3ds Max は米国および/またはその他の国々における、Autodesk, Inc.、その子会社、関連会社の登録商標または商標です。その他のすべてのブランド名、製品名、または商標は、それぞれの所有者に帰属します。オートデスクは、通知を行うことなくいつでも該当製品の提供および機能を変更する権利を留保し、本書中の誤植または図表の誤りについて責任を負いません。

© 2010 Autodesk, Inc. All rights reserved.